

平成22年6月11日現在

研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2007～2009
 課題番号：19320108
 研究課題名（和文） 沖縄県伊江島の資料に基づく戦後沖縄の平和運動史に関する実証的研究
 研究課題名（英文） A positive study about the history of peace movement of postwar Okinawa based on a document of Ie island, Okinawa.

研究代表者
 石原 昌家（ISHIHARA MASAIE）
 沖縄国際大学・総合文化学部・教授
 研究者番号：30088736

研究成果の概要（和文）：本研究は、阿波根昌鴻氏（故人）の個人資料を学術的に活用することを出発点とし、3年間の研究を通じて、詳細な資料目録の作成を中核として、当該資料の史料学的重要性の検証、保存環境に関する科学的検討、行政資料とは異なる観点からの沖縄戦後史研究等を実施した。また、戦後沖縄における平和運動史を多角的に検証するために、主として阿波根昌鴻氏の関係者に対する聴き取り調査を実施した。他方、研究成果を広く社会に還元する観点から、重要な文字資料の複製を作成し、破損・劣化したモノ資料に修復を施し、伊江島においてシンポジウムを開催した。

研究成果の概要（英文）：Through the research activity of three years, the main activity had been the making of the documents lists, our research project team carried out the utilizing a personal documents of Mr. Shoko Ahagon (the deceased) for research with the starting point and practiced the consideration of the importance of the documents from the historical materials studies' point, scientific examination about the conservation environment on Ahagon's documents, and the study on postwar history of Okinawa round from a point of view that was different from the administration documents. In addition, we mainly carried out hearing investigation for the person concerned of Mr. Shoko Ahagon to inspect history of peace movement in postwar Okinawa from different angles. On the other hand, from a point of view that return the results of research widely in the society, we made the replicas of important documents, restored the materials for damage or deterioration, and held the symposium in Ie island.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	3,400,000	1,020,000	4,420,000
2008年度	3,100,000	930,000	4,030,000
2009年度	1,900,000	570,000	2,470,000
年度			
年度			
総計	8,400,000	2,520,000	10,920,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：沖縄史、伊江島、平和運動、阿波根昌鴻、土地闘争、目録化、資料保存

1. 研究開始当初の背景

本研究は、2001年に設立された「阿波根昌鴻資料調査会」のメンバーが中心となって実施してきた阿波根昌鴻氏（故人）の個人資料に関する概要調査の成果を踏まえて、当該資料の有する学術的な価値に基づきながら、戦後沖縄の平和運動史研究を発展させることを企図して、着想されてのものである。

研究開始当初の沖縄における戦後の平和運動史研究は、沖縄県公文書館所蔵の琉球政府文書および米国民政府文書といった行政文書・占領文書を用いたものが殆どであった。他方、民衆レベルでの平和運動に関しては、資料の収集や目録化といった、研究活動の準備段階さえ不十分な状況にあった。

こうした状況の中で、阿波根昌鴻資料は伊江島をめぐる記録に止まらず、沖縄県内外からの送付文書、沖縄全域にわたる各種団体の刊行物や新聞・雑誌など大変多岐にわたっており、民間の保存資料を活用する戦後沖縄の平和運動史研究という、全国的にも前例の少ない独創的な研究活動が可能となるものと思われる。

さらに、膨大な量にのぼる阿波根昌鴻資料は、未整理のまま残されており、その整理作業、目録化、保存環境整備などの活動は、アーカイブ学的にも貴重なケース・スタディとなると考えられる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、阿波根昌鴻資料という個人資料を学術的に活用し、そこに含まれる詳細な歴史記録に依拠しながら、戦後沖縄の平和運動史研究を、民衆レベルから描き出すことである。

阿波根昌鴻資料は、個人所蔵の現代史資料としては沖縄県内に例のない分量と内容を有しており、その全貌を資料目録として提示することは、沖縄戦後史研究の資料的基盤を大きく向上させることにつながる。

また、平和運動の当事者が残した多数の記録に依拠しつつ研究を進めることは、行政資料や占領資料を基盤としていた従来の戦後沖縄史研究に対して、新たな視座を提供することにもなる。

加えて、アーカイブズ学に基づく資料整理、目録作成、保存環境整備等の作業は、個人所蔵資料の新たな活用モデルを構築することになり、今後の資料発掘および活用に大きく貢献することとなる。

3. 研究の方法

本研究の遂行にあたっては、下記の2点を基軸とした。

(1) 目録作成作業

阿波根昌鴻資料を研究資源として活用することを可能とするための基盤整備として、阿波根昌鴻資料研究会のこれまでの調査過程で作成されたフォーマットを用いながら、目録データベースを作成する。

ただし、目録作成過程で、従来の資料データベースとは異なるデータベースを作成する必要のある資料群が見つかったこと、資料の整理・保存についての科学的な考察が必要になったこと等の理由から、本作業は以下の4つの作業を包摂することとなった。

- ① 阿波根昌鴻資料の目録作成
- ② 通称「おじいの家」に残されていた、阿波根昌鴻氏晩年の蔵書目録の作成
- ③ 資料の保存環境に関するデータ（温度・湿度・日射等）の継続的な収集と分析
- ④ 阿波根昌鴻資料の劣化抑制措置と劣化が激しい資料に対する修復作業

(2) 資料の分析と研究の展開

目録化された資料の中から、新たな歴史的事実の析出に結びつく資料を選別し、住民レベルからみた平和運動の様相について、学術的検討を加える。

この作業をより実効的かつ多角的に遂行するために、以下の作業を並行的に実施した。

- ① 阿波根昌鴻氏の関係者に対する聴き取り調査
- ② 阿波根昌鴻資料中、重要性の高い資料の写真撮影とレプリカ作成
- ③ 阿波根昌鴻資料中、重要性の高い資料の活字化
- ④ 阿波根昌鴻資料に基づく学術的な研究
- ⑤ 研究成果の社会還元としてのシンポジウムの実施

4. 研究成果

3年間の研究活動を通じて、下記の成果をあげることができた。

(1) 目録作成作業

① 阿波根昌鴻資料の目録作成

膨大な量にのぼる阿波根昌鴻資料のうち、阿波根昌鴻資料調査会がおこなっていた目録作成作業を引き継いで実施した。

3年間の活動で、2ヶ所の原保存場所に残されていた資料の目録化を、ほぼ終わらせることができた。しかし、量が膨大であるため、未着手の資料がまだ残っている。

② 蔵書目録の作成

阿波根昌鴻氏が晩年に手もとに置かれ

た個人蔵書に関しては、他の資料群とは違う資料的重要性があると判断し、独自のデータベースを作成した。

しかし、まったく新たにデータベースを作成したため、その分類方法や項目、データとのとり方について検討しながらの作業となったため、3年間で作業を終了させることはできなかった。

③ 保存環境のデータ収集と分析

阿波根昌鴻資料が保存されている資料庫、倉庫に自動式の温湿度測定機器を配置し、保存場所の温湿度状態を科学的に検討することで、保存に適切な環境整備の提言を資料管理者に対しておこなった。

④ 資料劣化の抑制と劣化資料の修復

阿波根昌鴻資料の保存環境は決して良好であるとはいえないため、資料劣化の進行を抑制するため、現地調査時に毎回資料保存環境のクリーニングを実施し、資料保存用具を整え、そこに防虫剤を投入するなど、できる限りの措置を施している。

また、特にモノ資料のうち劣化の激しいものについては、レプリカの作成や劣化防護措置を施すなど、修復措置をおこなった。

(2) 資料の分析と研究の展開

① 阿波根昌鴻氏の関係者に対する聞き取り調査

沖縄県内、首都圏及び愛媛県に居住されている、阿波根昌鴻氏と交流のあった関係者の方約10名に対して、聞き取り調査を実施した。調査結果の概要については、調査チーム内で情報が共有され、目録作成過程での年代判定の参考とし、また阿波根昌鴻氏のライフストーリーの詳細な理解につながった。

② 阿波根昌鴻資料中、重要性の高い資料の写真撮影とレプリカ作成

阿波根昌鴻資料のうち、とくに1950年代に作成されたものは劣化が進んでおり、研究活動に際して原資料をそのまま活用することは資料破壊につながる危険性が高いため、重要なものについては写真撮影し画像データとして保存する一方、レプリカを作成して研究活動や一般公開に供することとした。

③ 阿波根昌鴻資料中、重要性の高い資料の活字化

②と同じ理由により、阿波根昌鴻資料中、とくに多くの研究者に公開することで、戦後沖縄の平和運動史の新たな展開に貢献する可能性が高い資料については、翻刻を施し、活字化して公開することとした。

④ 阿波根昌鴻資料に基づく学術的な研究

主として、1950年代の平和運動史についての学術的な考察をおこなっている。

なお、この研究成果の一端は、下記のシンポジウムで報告されており、本格的には

後掲の「報告書」に掲載予定である。

⑤ 研究成果の社会還元としてのシンポジウムの実施

2010年3月6日に、伊江島において公開シンポジウムを実施し、併せて講師を招聘して基調講演をしてもらった。その概要は、下記の通りである。

基調講演「記録なくして歴史なし」

仲本和彦（沖縄県公文書館公文書主任専門員）

シンポジウム：「阿波根昌鴻資料の役割」

進行 水野保（中央大学非常勤講師）

パネラー

安藤正人（学習院大学大学院教授）

石原昌家（沖縄国際大学教授）

青木睦（国文学研究資料館准教授）

鳥山淳（琉大、沖国大非常勤講師）

(3) 報告書の作成

上記の研究活動の成果として、報告書を作成し、刊行すべく、準備を進めている。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計15件）

① 安藤正人、戦争・植民地支配とアーカイブズ—現代的課題との関わりから—、人民の歴史学、査読無、No.180、2009、1—22

② 高橋実、日本近世社会の特質と文書の作成・管理、中近世アーカイブズの多国間比較、査読無、2009、111—126

③ 高橋実、日本近世社会における文書の作成と管理・保存、中近世アーカイブズの多国間比較、査読無、2009、127—135

④ 高橋実、1840年代在郷における商い金紛争とその特質—商い帳簿認識と訴訟工作—、中近世アーカイブズの多国間比較、査読無、2009、273—284

⑤ 鳥山淳、一九五〇年代沖縄の軍用地接收—伊江島と伊佐浜そして辺野古—、歴史評論、査読無、No.712、2009、35—49

⑥ 石原昌家、米軍政下沖縄における「靖国神社合祀」問題—「靖国化された沖縄」からの脱却をめざし—（上）、沖縄国際大学社会文化研究、査読有、第11巻第1号、2008、23—41

⑦ 石原昌家、イデオロギーの問題となった集団自決という言葉の意味—「軍民一体意識」の形成をめざす国防族—、南島文化、査読有、第30号、2008、107—125

⑧ 安藤正人、アジアにおけるアーカイブズとアーカイブズ学研究、人間文化、査読有、第2号、2008、91—127

⑨ 安藤正人、レコードキーピングとアーカイブズ：現代の記録管理を考える、情報

の科学と技術、査読無、第 58 巻第 11 号、
2008、535-541

- ⑩ 青木睦、文書の保存・管理、修復技術について アーカイブズ保存の理論－保存理論と保存修復の原則－、アーカイブズ、査読有、第 32 号、2008、1-18
- ⑪ 石原昌家、書き換えられた沖縄戦－「靖国の視座」による沖縄戦の定説化に抗して、世界、査読無、767 号、2007、67-77
- ⑫ 石原昌家、「援護法」によって捏造された「沖縄戦認識」－「靖国思想」が凝縮した「援護法用語の集団自決」－、沖縄国際大学社会文化研究、査読有、第 10 巻第 1 号、2007、31-54
- ⑬ 安藤正人、地域資料の活用拡大のための課題について－“草の根文書館”論再論、歴史科学、査読無、No. 187、2007、20-31
- ⑭ 高橋実、熊本藩の文書管理システムとその特質（その 2）、国文学研究資料館紀要アーカイブズ研究篇、査読有、第 3 号、2007、29-59
- ⑮ 鳥山淳、「沖縄」から見直す戦後日本の民主化、歴史地理教育、査読無、No. 709、2007、26-31

〔図書〕（計 9 件）

- ① 石原昌家、他、法律文化社、新・平和学の現在、2009、270
- ② 石原昌家、他、世界思想社、新版ライフヒストリーを学ぶ人のために、2009、324
- ③ 安藤正人、岩田書院、アジアのアーカイブズと日本－記録を守り記憶を伝える、2009、115
- ④ 高橋実編著、名著出版、近世・近代の地主経営と社会文化環境－地方名望家アーカイブズの研究、2009、435
- ⑤ 鳥山淳編著、社会評論社、沖縄・問いを立てる 第 5 巻 イモとハダシ、2009、185
- ⑥ 鳥山淳、琉球新報社、不屈 瀬長亀次郎日記 第Ⅱ部 那覇市長、2009、419
- ⑦ 石原昌家、他、凱風社、米軍再編と前線基地・日本、2007、206
- ⑧ 高橋実編著、岩田書院、藩政アーカイブズの研究、2008、340
- ⑨ 高橋実編著、名著出版、藩の文書管理、2008、372

6. 研究組織

(1) 研究代表者

石原 昌家 (ISHIHARA MASAIE)
沖縄国際大学・総合文化学部・教授
研究者番号：30088736

(2) 研究分担者

藤波 潔 (FUJINAMI KIYOSHI)
沖縄国際大学・総合文化学部・准教授
研究者番号：20328652

(3) 連携研究者

安藤 正人 (ANDO MASAHIRO)
学習院大学・アーカイブズ研究科・教授
研究者番号：90113422

高橋 実 (TAKAHASHI MINORU)
国文学研究資料館・アーカイブズ研究系・教授
研究者番号：20296180

青木睦 (AOKI MUTSUMI)
国文学研究資料館・文学形成研究系・准教授
研究者番号：00260000

鳥山 淳 (TORIYAMA ATSUSHI)
琉球大学・法文学部・非常勤講師
研究者番号：60444907

小屋敷琢己 (KOYASHIKI TAKUMI)
琉球大学・教育学部・准教授
研究者番号：20404551